

## 平成31年度全国学力・学習状況調査 横浜市の結果

平成31年4月18日に横浜市立小学校6年生（約2万9千人）、中学校3年生（約2万4千人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査の各教科に関する結果概要をお知らせします。

### ◎ 調査結果から見る本市の特徴

中学校では、英語において、全国の平均正答率に比べ4ポイント高い状況が見られました。また、小学校では、算数において、全国の平均正答率に比べ2ポイント高い状況が見られました。

【平均正答率（％）】

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
<b>横浜市</b>	<b>63</b>	<b>69</b>	<b>73</b>	<b>60</b>	<b>60</b>
全国との差	-1	+2	±0	±0	+4
神奈川県	61	67	73	59	59
全国	64	67	73	60	56

※ 平成31年度学力・学習状況調査は、全ての教科において知識と活用を一体的に問う問題形式となったため、昨年度まで示していたAB区分がなくなりました。

※ 全国の平均正答率については、文部科学省の許可のもと整数値に直して表しています。

※ 横浜市、神奈川県、全国の値は、公立学校の平均正答率です。

※ 中学校英語の調査結果は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計しています。「話すこと」については、全国の平均正答数及び平均正答率を別に集計し、都道府県別、指定都市別の公表は行わないこととなっています。

### ◎ 調査結果から見て特徴のある設問

全国の平均正答率との差が4ポイント以上あった主な設問は、次のとおりです（ポイントは整数値）。

#### 【小学校】

##### 国語

・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」設問が6ポイント低い。

##### 算数

・「資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる」設問が6ポイント高い。

・「2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる」設問が5ポイント高い。

#### 【中学校】

##### 数学

・「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる」設問が4ポイント高い。

・「事柄が成り立つ理由を説明することができる」設問が5ポイント高い。

・「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」設問が5ポイント低い。

##### 英語

・「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」設問が6ポイント高い。

・「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」設問が6ポイント高い。

・「日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」設問が6ポイント高い。

・「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる」設問が4ポイント高い。

・「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」設問が10ポイント高い。

※ 「生活習慣・学習習慣と教科に関する調査結果との関係」を示す項目や「授業改善に向けて」に関する項目については、後日、横浜市教育委員会のウェブページでお知らせします。

お問合せ先

教育委員会事務局教育課程推進室長 関口 和弘 Tel 045-671-3723